

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）
 タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	浜松医科大学(計3大学) (静岡県立大学、光産業創成大学院大学)
事業名	ふじのくに高度臨床研究医養成拠点
事業責任者	浜松医科大学学長 今野 弘之
事業の概要	
<p>本学臨床研究センターは国際レベルの臨床研究を支援しており、臨床研究部の支援は年200件を超えるが、人的リソースの不足で必ずしも臨床研究医の望む支援ができていない。そこで、専従のプロジェクトマネージャー、CRCを増員するなど機能強化を図り臨床研究を推進し、医師の研究時間を確保し新たな臨床研究を生み出すことを可能とする。静岡県立大学や光産業創成大学院大学を連携校にして、他分野の研究者からアドバイスを得るとともに、両大学で在籍する大学院生の協力も得ながら臨床研究の新たな展開を推進する。さらに、本学の大学院生や医学生がRA等で研究参加することにより、最先端の臨床研究に触れ将来研究を行うための素養を高めるとともに、他分野の研究者等と協働し創造的な研究を行う原動力となる。これらの取組で得られる研究成果を協力機関に展開するなど、特定臨床領域において拠点校となることを目指す。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○循環器・老年内科・精神科・呼吸器内科と広範囲に展開しており、これまでの研究実績ではトップレベルの実績を誇る。</p> <p>○臨床研究センターの実施体制が整っている。</p> <p>○バランスがとれており、多領域にわたる学際的な研究である。4つの大きな分野にまたがり、広がり大きい。</p> <p>○医学部3年生で基礎配属を行ない学生がアントレプレナーシップを行う教育は先進的である。</p> <p>○増員人数が明確でCRCの増員などは、すぐに達成できそうで実現可能性が高い。</p> <p>○学生教育にメディカルスタッフを導入する発想は興味深い。</p> <p>○ある程度ネットワークができており、連携校の参加は具体的な解決策となる。</p> <p>○専従のプロジェクトマネージャー、CRCを増員するなど機能強化を図り臨床研究を推進し、医師の研究時間を確保し新たな臨床研究を生み出すという点においては良く練られている。</p> <p>○既存の体制をうまく活用しており、運営体制やマネジメントの在り方は良く検討されている。</p> <p>○産業に頼らない体制構築は継続性維持につながる。</p> <p>●国際レベルに達成する具体的なビジョンが明確ではない。</p> <p>●新規PETトレーサーは何をターゲットにするのかについて説明がない。</p> <p>●国際レベルの事業の構想では、各領域でかなり研究内容や進捗状況に差があり、国際レベルの研究をどのように進めていくのかという点が、具体性に欠ける領域がある。そのため、一律に進めていけるのかという点では懸念が残る。</p> <p>●学生が行っている既存研究体制の環境維持をどのように行うか、配属先が基礎医学系のみ6週間など、学生教育への寄与が明確ではない。また、TA、RA、SAをどのように組み込んでいくのかが明確ではない。</p> <p>●連携校への予算配分がうまく活用されるか疑義がある。</p> <p>●シミュレーション教育に力を入れているが、現有しているものにシミュレータを加えることで見込める効果が不明確。</p>	

- 現在一定数いるとされる研究マインドをもった医学生の増加策を明確にすることが望ましい。
- 臨床系教員の、診療以外(教育研究等)の勤務時間割合が少ない。
- 企業治験の獲得を目指すのは良いことだが、実現可能性に疑義がある。
- 領域が多いため達成目標にばらつきが生じないか懸念される。
- RCT、機器開発、PET プローブ開発などが現実的にどこまで可能か明らかにしてほしい。
- 研究データは各施設でも取り組んでいるため、本事業の特徴をより明確にしてほしい。
- 多くの研究者の管理が臨床研究センターのPMで可能か、連携校とのより連携内容が不明確
- 増員した研究支援者のサポートから製薬会社との連携に至る過程が明らかではない。
- CRCなどの充足が目的であれば、各年度同じ計画でも良いのではないか。